

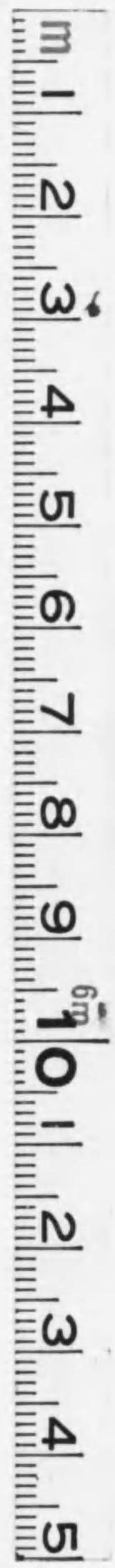
北部北海道の景勝

特 251

988



北海道景勝地協會



始





特251  
988

### 北部北海道の景勝地

#### 一、大雪山国立公園

##### 一、概要

大雪山国立公園は所謂本道の中央高地を占め石狩、十勝兩國に亘り、本邦最大の国立公園である。公園區域は石狩國側は上川郡上川村、美瑛村、東川村、空知郡上富良野村、富良野町、南富良野村、十勝國側は上川郡新町、河東郡士幌村、鹿追村、上士幌村の二町八箇村に及ぶ、總面積二三一、九二九陌は實に本邦国立公園中最大の面積たると共に、私有地の絶無なるは特筆すべきものである。即ち御料林二五、一四六陌、國有林一九八、九九七陌、地方費有林七〇、

一三五陌、其の他の國有林三〇六陌にて區域内湖水面積三四五陌である。

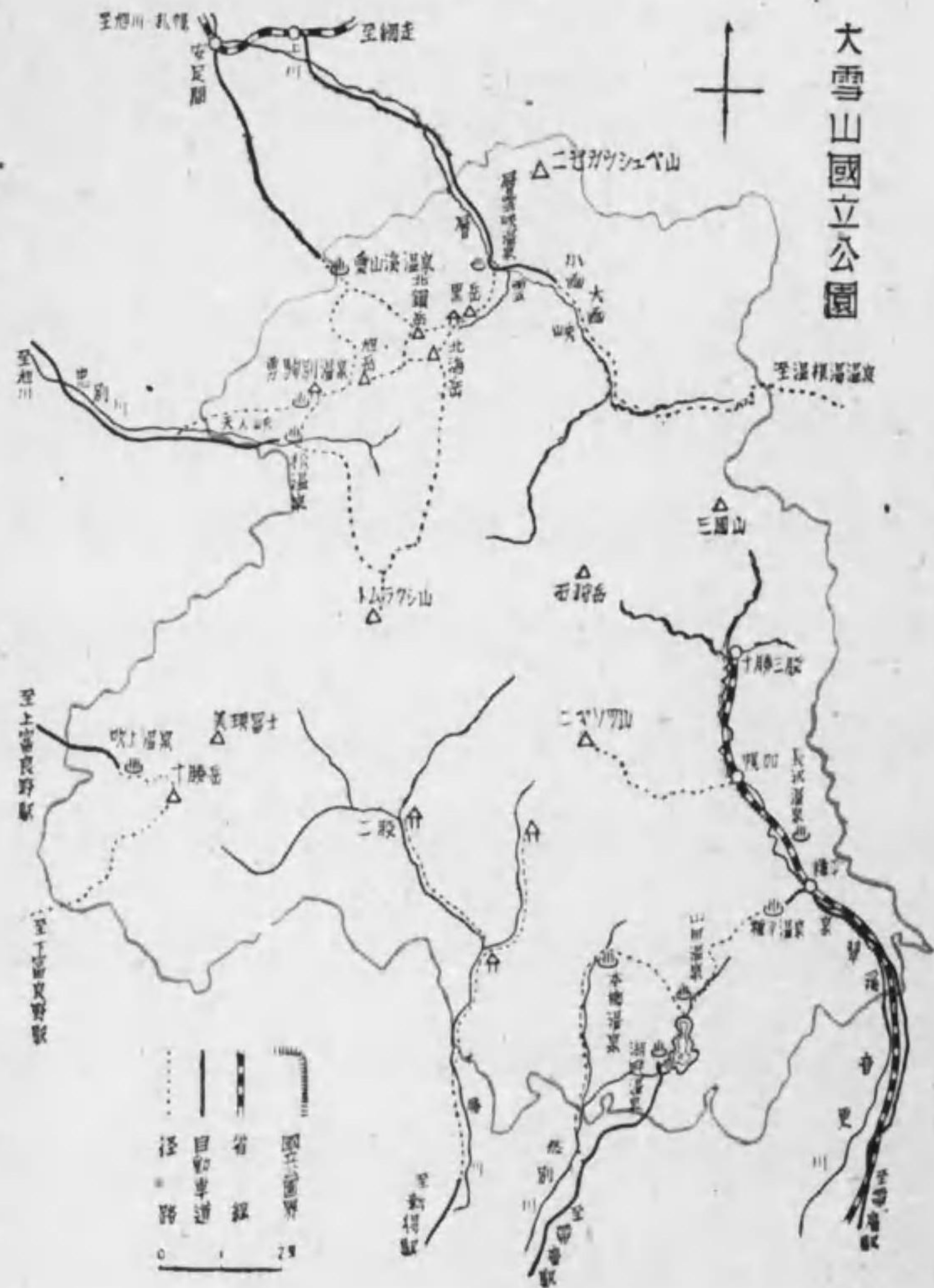
是等雄大なる風景の世に認められたのは極く最近の事柄であつて一躍阿寒国立公園と相並び昭和九年十二月国立公園に指定せられた。最近一年の利用者大約五万余人と稱せられる。

公園區域は石狩川、十勝川、音更川、忠別川等の大水流の水源地帯にして、本島の最大高峯旭岳を盟主として北嶺岳、白雲岳、愛別岳等よりなる大雪山火山彙、活火山として著名なる十勝岳火山彙、其他トムラウシ山、石狩岳、ニベソツ山等の二千米級の峻峰を繞し、其間雄大な地形の裡には雲の平、高根原等鮮麗なる御花畑、五色原、沼ノ原等の特異なる大濕原を展開し、是等諸山岳の中腹以下は御料林、國有林の大森林に蔽はれその廣大なる森林景観は他に類





大雪山國立公園



二、探 勝

旭川市—上川驛—層雲峽 石北線上川驛から

例を見ない處である。原始の植物相又は鳴兎等の珍奇なる動物其他北海道固有の動物相を良く保留し學術上の寶藏として貴重なるものがある。また各水流は層雲峽、天人峽、泉翠溪等の壯大な峡谷を構成し、溪間、山腹にはまた層雲峽、愛山溪、松山、吹上、糠平、然別湖等の諸温泉を恵くみ、鐵道又は自動車を通じ交通至便なるも、奥地は未だ無人の境たるものが多い。大雪山國立公園は登山、一般觀光、自然研究等に好適なると共に冬季は又絶好の積雪に恵まれ、白銀の山々と之を飾る針葉樹林はスキーヤーの憧憬的である十勝岳、大雪山の兩山彙は既に設備も備り最高級の山岳スキー地をなしてゐる。

石狩川に沿つて約十二軒行くと双雲別と稱する部落を過ぎる。所謂層雲峽の溪谷美は此の部落附近より始まる。更に約十軒にして神仙橋を渡ると層雲峽温泉に到着する。此處に至れば層雲峽の眞の溪谷美に接することが出来る。約二軒にして流星の瀧に至り、更に銀河の瀧、天城峰を経て小函、大函の奇勝を探ることが出来る。附近は針潤混淆の大原始林に蔽はれその新緑、紅葉は言ふまでもなく、五月の頃の躑躅も亦見事である。温泉旅館は三軒ある。層雲峽—大雪山 層雲峽温泉から大雪山の高峰黒岳へは約七軒、四五時間を要する。黒岳頂上より黒岳石室へは約一軒、二十分餘にして達する。大雪山の諸峰へは此の石室を中心として何れも容易に登山出来る。尙茲には番人も居て宿泊食事も不自由はない。



旭川市—愛山溪温泉—大雪山 愛山溪温泉は石北線安足間驛に下車し約二十二軒、乗合自動車で一時間である。路は美しい潤葉樹林より針葉樹林に入り海拔九〇〇米の温泉場へと到着する。温泉場から永山岳へは約六軒、三時間餘を要する。此より比布岳、北嶺岳を経て黒岳石室へは約七軒、三時間半餘にして達する。旅館は一軒、森林事務所の小舎もある。

旭川市—松山温泉 (天人峽) 松山温泉に達するには旭川市から東川迄電車に乗り、又は乗合自動車によるものである。進むに従ひ溪間は益々狭まり、兩岸に屹立する大岩壁は素晴らしい柱状節理を示してゐる。更に暫く進むと忠別川に面し溪底に在る松山温泉に到着する。温泉は一軒あり、俗座を離れた仙境の感がある。温泉場の附近には羽衣の瀧と呼ばれる三段になつ

て落下する大瀑布があり、壯麗にして優美なること本國立公園中随一である。

松山温泉—大雪山 温泉場から天人境の絶壁をよち約六軒にして旭平に出で、此より約一軒にして旭岳頂上に達する。温泉から黒岳石室までは約一日を要する。猶此の温泉場からはトムラウシ山へ約一日半を要して達することが出来る。

上富良野驛—吹上温泉—十勝岳 富良野線にて上富良野に下車し、温泉場までは約十九軒、乗合自動車約一時間にして達する。上富良野驛から約十軒にして中の茶屋に至り森林帯に入る。此の間絶へず噴煙をあげてゐる十勝岳を正面に、左にオプタテシケ連峰、大雪山を、右に富良野岳を仰ぎつゝ進む。沿道のエゾ、トドの林も美事である。温泉場から十勝岳の頂上へは

約五軒、時間にして約四時間餘を要する。途中には大正十五年の大爆發に依る大泥流の跡や、十勝の噴火口が見られる。

帯廣市—扇ヶ原—然別湖 帯廣市より湖畔までは約五十四軒、乗合自動車約三時間にして達する。途中十勝平野の快適なドライブを楽しむことも出来る。扇ヶ原の大展望を賞することも出来る。然別湖は然別火山彙に抱かれて眠る堰止湖であつて、周囲は針葉樹の原始林に蔽はれ、湖中には辨天島と呼ばれる一小島を浮べて本國立公園内唯一の幽邃なる湖沼風景を現出してゐる。湖畔には温泉湧出し、温泉旅館がある。ヤンベツ川口では面白い程に岩魚が釣れ、湖中には一米に及ぶ岩魚が棲息してゐる。湖の風光を賞するには旅館の對岸に位する展望山に登るがよい。

湖をモーターボートで渡り山田温泉を経て糠平温泉に達することが出来る。糠平温泉は又音更線糠平驛より入ることが出来る。

泉翠溪は泉翠橋附近より始まり約四軒糠平温泉への分岐點まで續いてゐる。瀑布、急湍竝に深淵が隨所に配置され變化の多い溪谷美を現出してゐる。溪谷の終り附近一支流に沿つて糠平温泉がある譯で、數軒の温泉宿があり、俗座を去ること遠く、針葉樹の原始林に圍まれた神秘境である。此より然別湖に出ることが出来る。

### 登山コース

旭川—上川—層雲峽温泉—黒岳石室—北嶺岳  
比布岳—永山岳—愛山溪温泉—安足間—旭川  
旭岳—松山温泉—東川  
大雪山は峻峰十餘を算する一六火山彙の總稱



であつて、旭岳を盟主としてゐる。此嶺山嶺の間に展開するお花畑は本邦の代表的なものであり、岩間に鳴く「なきうさぎ」の聲は登山者の耳をそばだゝしめるが容易に其姿は見せない。山頂附近には夏期猶雪溪、雪田があつて、高山植物の美と共に本山の山岳美を一入引き立てゝゐる。今猶噴煙を續ける旭岳の裾には温原が發達してゐる。

此等峻峰の頂きからの眺望は何づれも捨て難いが旭岳、北嶺岳が優れてゐる。

双雲別—ニセイカウシユベ山 層雲峽を隔てゝ大雪山彙と對峙する。本山の八合目以上は宛然高山植物園の觀がある。残雪に彩られて蟠居する大雪山彙の好個の展望所である。

層雲峽—ユニ石狩川合流點—前石狩澤—大雪山—忠別岳—スタプヤムベツ川

合流點—石狩澤—石狩岳

其の深山味の點よりすれば恐らく本道隨一と稱せられる石狩岳は、本國立公園の中央部に位置し、山頂の雄大なる眺望は最も著しい特徴の一つであるが、コースの大部分がキャンプに依らなければならぬので萬人向のコースとは言ひ得ない。

層雲峽—大雪山—トムラウシ山—オプタテシケ山—十勝岳—吹上温泉。

本國立公園の眞價は此の中央高地の縦走に依つて始めて知られる。雄大な大雪山彙より峻巖なトムラウシ山へ、更に噴煙をあげる十勝岳へと渡つて行くと、右手には上川平野、左手には石狩川上流、十勝川上流の大森林などが望まれ原始の姿に心ゆくまで接することが出来る。本コースも亦萬人向のコースとは言ひ難い。

吹上温泉—噴火口—前十勝岳—十勝岳

十勝岳は活火山にして、吹上温泉からエゾマツの林を歩くと忽然として大泥流の跡が現れこれを登り噴火口を経て山頂に立てば、遙にトムラウシ山、大雪山を望見し、近くには上ホロカメツトク山、富良野岳の雄姿も望まれる。後二者へは十勝岳山頂より山稜傳ひに往復出来るし、又温泉から直接登山も出来る。

音更線幌加驛—ニベツツ山

山容の勝れた本山は登山路はあるが登山に可成りの困難を伴ふ。糠平温泉よりキャンプ一泊又は二泊にて登山し得る。

X

スキー地 大雪山彙では愛山溪温泉、十勝岳山彙では吹上温泉が夫々根據地をなし、諸般の

設備完備し絶好の積雪と見事な樹林に飾られた山々を繞らし最高級の山岳スキーを享樂するところが出来る、各根據地迄には馬橋が通ずる。

## 二、兜 沼

天鹽國天鹽郡幌延村大字沙流村字上サロベツに在り、兜沼を中心として附近一帯を包含する區域にして其の面積約一二〇〇陌國有地に屬する。

宗谷本線兜沼驛に接近し、湖岸にトドマツ、オンコ等の巨樹が茂り、清らかな水の面には中島を浮かべ、風光頗る明媚である。兜沼市街には三四軒の旅館があり、宿泊や一般遊覽に至極便利なので春の花見、夏の納涼、秋の紅葉狩、釣魚等で遊覽者多く地方的利用著大なるもの



がある。



兜沼南方一帯は海岸低地の隆起地帯に當り、所謂上サロベツ原野の大泥炭地である。見渡す限りの荒寥たる濕地原をひかへた裡の、この沼の愛す可き風景は、地方唯一、無二の慰樂の場である。

湖畔アチャルベシベの部落には、オンコの名木「言問の松」があり著名である。推定樹齡千

二百年、樹高約十四米、目通り周圍約四米樹形は大傘を擴げたるが如く、その聳へ立つ偉容は遠く兜沼の對岸よりも、これを望み得るため、人呼んで言問の松と謂ふ。驛より約六軒。

兜沼の原名は「サラベツト」莎草の生へた原の意で、その形恰も兜に似たるため、兜沼と呼ばれる。

湖中には水生植物の菱が自生し、比較的大面積に亘り繁茂してゐるが、菱の實は獨特の風味があり、且近時藥治効能が知られてからは盛に採集され地方的名物となつた。

尙湖畔よりは、はるかに利尻岳の鋭峰も望まれる時もあり、ロマンチックな感を與へることが大きい。

### 三、天賣島及燒尻島

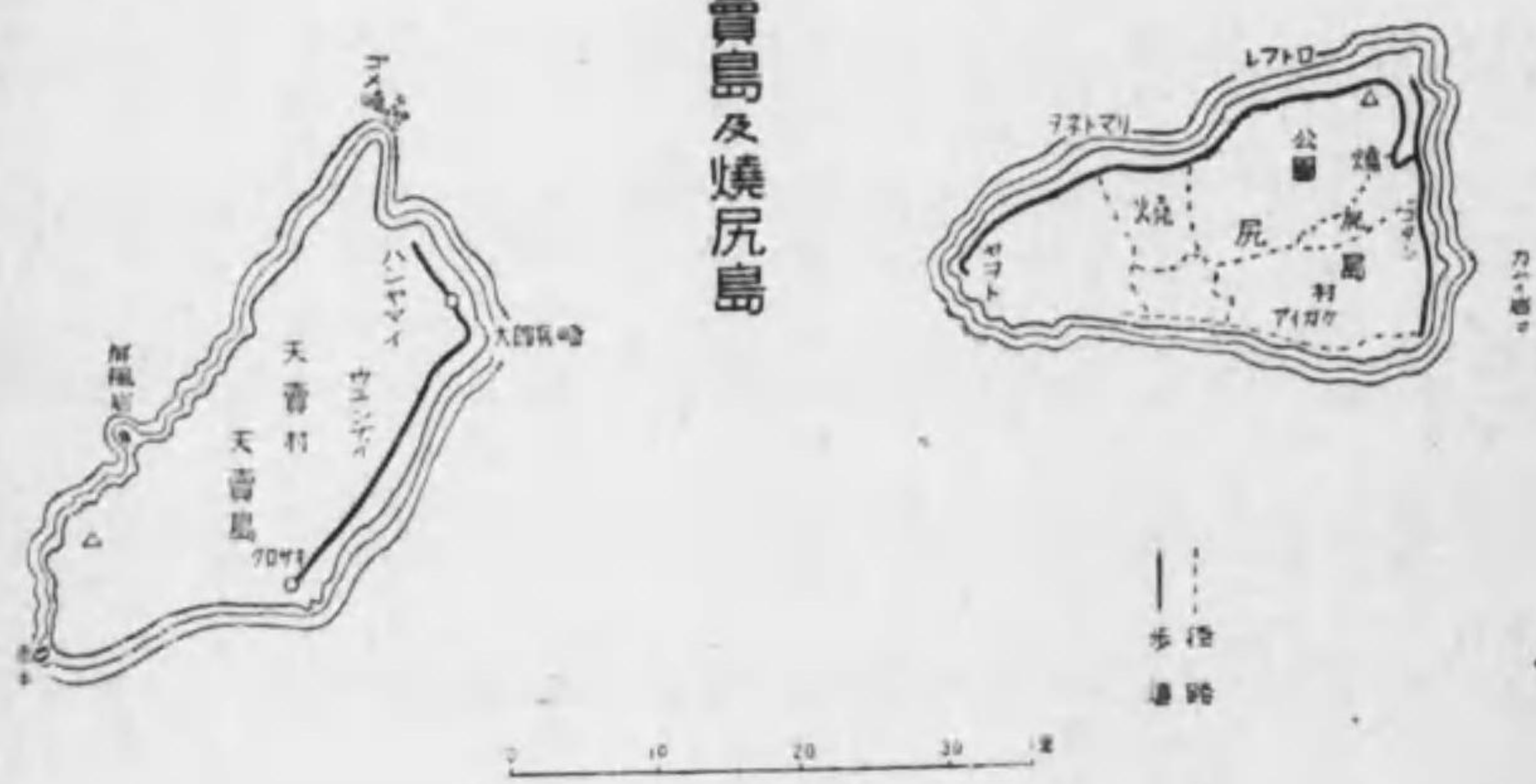
天鹽國苫前郡天賣村同郡燒尻村一圓、面積約一二〇〇陌、大部分國有地である。

天賣及燒尻兩島は天鹽國羽幌沿岸の西約一六哩の海上にそり立つて居る。景色の佳い離島である。

#### 天賣島

天賣島は面積僅か五平方軒餘に過ぎない一小島で南東は地勢平坦、明媚な漁村の聚落風景を展げ、北西は斷崖と奇峭とが連続、し怒濤岩に激して豪壯な景觀を成し、容易に近づき難い。其の爲め年々三月から六月の間は、オロン鳥（ロツペン鳥）、鴨、鶉、ケントウ鴨、アカシ、アイサ、其の他無數の水禽が集まつて、岩上や岩穴

#### 天賣島及燒尻島





に産卵する様は、他に類例を見ない特異の風景である。此の島のリクンネットの二〇〇米程沖に浮く鶴の島(俗稱)は、直徑約四〇米の岩島であるが、秋には鶴が多数來集し奇觀を呈する。

島の歴史は百五十年前、天明六年紀州有田の人栖原角兵衛が松前藩の命に依り焼尻島に漁場を開設し、其の漁期後、來島し追鯨場として漁場を設けたのに始まり、後明治七年西津輕の人熊木兵作一家が、漁場の番人として越年したのを和人移住の嚆矢とする。

本道との交通は北海道廳命令航路小樽—稚内線及小樽—遠別線に屬し、毎月往復十六回の寄港がある。三等郵便局もあり電信も取扱ふ。旅館は三軒あつて宿泊に不便はない。年々夏季の遊覽者は二百名を超へて居る。

#### 焼尻島

焼尻島も亦五平方軒餘の小島である。初めて島を訪れる者は、船が海岸に近づくと共に、先づ船入間の立派なのに誰しも驚くであらう。沿岸は到る所船を泊めるに都合よく、樺太通ひの汽船及近海の漁船が時化に遭つた際の絶好の避難所とされて居る。

陸上一帯オンコの美林が長く續き、翠緑の影を地に曳き、自然の大庭園を成し、風光明媚である。殊に秋季無數の紅葉を結ぶ際の美しさは、洵に譬へやうがない。

島内雲雀ヶ丘公園、鶯谷の老松、御神威の松、奇瑞の松、姥松、水松の莊等觀るべき名所が多い。

此の島に初めて人が移り住んだのは、凡そ二百年前で、出漁中漂着した苦前アイヌが、山海

の獲物の多きに驚喜し、自分の部落に歸り同族

を引連れて移住したのを嚆矢とする。和人の姿を現はしたるは、延享三年松前郡福山の人山田某が漁場を開いたに始まり、慶應二年初めて移住を見、今日の盛賑を來すに至つた。

本道との連絡は、北海道廳命令航路があり月往復十六回の寄航の外、羽幌港からは發動機船が毎日訪れる。郵便局もあり、旅館も二軒あり不便を感じしめない。

#### 四、利尻島及禮文島

北見國利尻郡及禮文郡一圓、面積約二六八平方軒、兩島とも大部分國有地で、海岸線に沿ふて僅少の民有漁場を有する。

北海道の北端ノシャツブ岬の沖約三〇哩を隔

て、二つの島がある、是が利尻と禮文である。

#### 利尻島

リシリと云ふアイヌ語は、「高峯の島」の意で、其の名の如く島の中央に巍然として利尻岳が聳立し、恰も東海の富嶽を望むが如く、洵に美しい姿である、一名利尻富士とも呼ばれて居る。

此の山は第三紀の地殻變動期に生じ、以來破壊的活動なく單に間歇的の噴火をなしたのみで、現在は火口全く閉塞して居る。五合目以上はハヒマツが繁茂し、其の間にお花畑が瞭亂の錦を展げて居る。其の種類豊富で館脇博士等の植物學者の夙に注目調査せる處にして、植物學上珍奇な本島特有の高山植物も尠くないので著名である。リシリの名の冠するもののみにもリシリシノブ、リシリデング、リシリブシ、リ



# 利尻島及礼文島

—— 自動車道  
—— 国道  
—— 道



リシリサウ等がある。

シリタウチサウ、リシリワウギ、リシリゲンゲ、リシリスゲ、リシリカニツリ、リシリゼキセウ、

環らし、少し離れて礼文島が碧波に浮んで居る。其の眺望洵に雄大を極め筆紙に盡し難い。

山頂に立てば北は水平線上遙に樺太島を望み、東は北見天鹽の山脈の起伏を指呼の中に收め、西は渺茫涯なき日本海である。脚下の山麓には白波碎ける海岸線と、明媚な漁村の聚落を

山麓を環る杳形、鷺泊、鬼脇、仙法志の四ヶ村は、一本の環状道路によつて結ばれ、自動車を駈つて一周して一島の景勝を觀賞することが出来る。四ヶ村とも良港を有し、豊富なる漁獲と昆布採集に榮へて居る。

島の歴史は禮文と共に古く、貞享年間松前藩の統轄に屬する以前、既にコロボツクル、アイヌ等の種族が棲息して居つて、到る處穴居の跡があり、土器、石器が發掘されて、考古學上にも興味をもたれて居る。和人の初めて渡航したのは天明年間であるが、文化二年(百三十年前)より松前藩の利尻、禮文漁場を松村幸右衛門が引受けて、此の島に二統の漁場を開設してより漸次開發されて今日に至つて居る。

利尻岳登山に、一帯の景勝遊覽に來島する者年々一千名に上つて居る。本道との聯絡は北海

道廳命令航路で、島谷、藤山兩汽船會社の汽船が定期に回航して居る。又稚内との間には海底電線を有し、通信機關も備はつて居る。各村とも宿泊設備が完備して居る。

## 禮文島

土語レブンシリは「沖の島」の意である。最高峰禮文岳に立ちて四顧すれば、北は海馬島を隔て、水平線の彼方に樺太島を望み、東は起伏重疊せる天鹽北見の山脈を眺め、西は日本海の波漫々として涯を知らない。南は利尻島が海を抜いて高く聳へ、洵に絶佳なる風光に心を打たれる。殊に利尻岳の美しい眞の姿は此の島に立ちて初めて觀賞することが出来るのである。禮文島は利尻島と同じく植物の種類が豊富で、夙に館脇博士の調査研究する處あり近來著名となつた。本島特有の高山植物も尠く



ない。レブンの名を冠するもののみにも、レブンサウ、レブンサイコ、レブンコザクラ、レブンウスキ、レブンアツモリ、レブンスゲ、フタナミサウ(舞文二並山に依る)等がある。

就中西海岸桃岩を南部の中心に、北部ササドマリ上部迄一二軒に亘る豊富なる植物より成る御花畑及ウエンナイよりアマナを中心にハヒマツ群落の比較的低地への下降は、本島代表の植物群落である。

島内名勝多く、桃岩、見内神威、禮文瀧、島見の瀧、久種湖等殊に著名で、アイヌ種族の種々の傳説が織り込まれて居つて洵に興味深きものがある。

交通通信の關係は利尻島と同様便利であり、又宿泊の施設も完備して居る。

昭和十七年十二月十五日印刷  
昭和十七年十二月二十日發行

札幌市圓山南町一四〇三番地

編集者 五嶋甚之助

札幌市大通西五丁目一番地

印刷人 中西吉之助

札幌市大通西五丁目一番地

印刷所 中西寫真製版印刷所  
〔北札75〕

北海道拓殖部内

發行所 北海道・景勝地協會

(北部)

昭和十七年十月三日北部軍司令部北軍參機第八〇三號檢閱済  
昭和十七年十月六日大湊警備府檢第一六三六號檢閱済



429  
260



終